

北日詰東ノ坊Ⅰ遺跡発掘調査 現地見学会開催

大溝跡は樋爪館の遺構か 建物の柱穴跡も多数検出

紫波町の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)は、町教育委員会が約350箇所を指定しており、このたび町教育委員会では、赤石小学校の北側道路を挟んだ北日詰東ノ坊Ⅰ遺跡を宅地造成工事に伴う緊急発掘調査として、約2,700㎡の面積を行った。

北日詰東ノ坊Ⅰ遺跡は、近年「平泉と並び立つ」とも言われ、高い評価を受けている樋爪館跡の北側道路に隣接する遺跡であり、以前より樋爪館跡北側の発掘調査は少なく今回の発掘調査が注目されていた。

これまで樋爪館跡の北端は、赤石小学校の北側道路までと推定されていたが、今回の発掘調査から樋爪館の大溝跡となる可能性のある遺構が約10m先まで広がり、さらに一段高い奥の場所から柱穴跡が多数検出され、その穴の中には木柱の一部が残っている遺構も点在している。

このほど開催の発掘調査現地見学会は、町教育委員会と紫波町文化財関係団体協議会(樋爪館懇話会ほか11団体加入)との協議のうえに進められものであり、それぞれの団体等より参加された約30人は、町教育委員会文化財専門員の話を熱心に聞き入り、さらに、平安時代の遺構・遺物を自分の目で確かめる大変貴重な体験をした。



拡大写真



柱穴跡の数か所に木柱の一部が残存している遺構を確認 出土した多数の遺物(土師器、須恵器等の破片)

《《《10月～11月行事予定のお知らせ》》》

10月19日(水)	第134回 月例発表会	午後7時～午後9時 赤石公民館 講義室 発表者 石幡 信 テーマ「安東一族と十三湊」 発表者 金濱 興一 テーマ「勿来(なこそ)の関」
10月20日(木) ～21日(金)	会員研修旅行 (青森県津軽方面)	十三湊における歴史・遺跡等の研修視察 《錦秋の津軽・十三湊の歴史を訪ねて》
11月16日(水)	第135回 月例発表会	午後7時～午後9時 赤石公民館 講義室 発表者 石幡 信 テーマ「安東一族と十三湊の研修報告」 発表者 平井 和夫 テーマ「『吾妻鏡』に見る北条義時」 ※8/17の続き、配付済資料を持参のこと。

9月21日に開催した第133回月例発表会において、発表者が用いました資料から一部分を抜粋して掲載しましたのでご了承願います。

宮 良 男 氏 の 「 日 本 の 仏 教 ⑬ 禪 宗 (仏 心 宗) 」

日 本 の 禪 宗

宗 派	臨 濟 宗	達 磨 宗	曹 洞 宗	晋化宗(虚無宗)	黄 檗 宗
開 祖	明庵栄西	大日房能忍	希玄道元	心地覚心 (臨濟宗楊岐派)	隠元隆琦
諡 号	千光法師	深法禅師	常陽大師	法灯禅師 法灯円明国師	真空大師 華光大師 大光普照国師
生 誕 地	備中(岡山)	筑前	京都	信濃国筑摩群神林	中国福建省清原
開祖年代	1141~1215	平安末期~鎌倉初期	1200~1253	1207~1298	1592~1673
開 宗				1254年 日本に 伝わる 16派	1876年
総 本 山		三宝寺(摂津)	大仏寺→永平寺	一月寺(現在は日 蓮正宗、鈴法寺)	萬福寺
寺 院 数	5,715寺		15,557寺	120寺	451寺
檀信徒数	110万人		152万人		33万人
御 本 尊			釈迦牟尼仏	虚竹禅師像	
特 徴	公安・看話禅 15派	無師独悟	黙照禅 只管打坐	尺八を法器・隠密	黄檗宗(念仏禅) 禅淨混沌
紫波の寺院			10カ寺		
盛岡の寺院	5カ寺		26カ寺		1カ寺

高 橋 敬 明 氏 の 「 樋 爪 館 跡 の 1 3 年 」

先月、羽柴直人さんの「もう一つの平泉-奥州藤原氏第二の都市・比爪-」が発行され、8月14日(日)付け岩手日報の「郷土の本棚」にこの書評が掲載。

書評に沿って自分なりの13年を顧みる。※囲い枠は岩手日報の書評の一部

「比爪」と聞いて、何のことか、ぴんとくる人は少ないではないだろうか。

残念ながらこのとおりである。われわれが「平泉と並び立つ」と大きな声を出しても、関心を持つ一部の仲間には届いていないのが実情であり、樋爪の価値を住民が意識するまでの道のりは未だ遠き感がある。とは言え、遅々としてではあるが着実に進んでいることも確かである。

「樋」と「比」を併用し統一されていないことも、その要因のひとつと考えられる。ちなみに13年前の観光パンフレット等では、「樋(比)爪」の漢字表記が主流であった。

紫波町観光交流協会では私が理事に就き歴史関係を担当した時期から、この状態は解消すべきであると判断し、紫波町史と紫波町指定文化財の名称を拠り所として「樋爪」に統一してきた。

奥六郡(本県中南部)から南に勢力を広げたい平泉に対して、北方の実権を握っていた樋爪。両者の均衡が、奥州藤原氏繁栄の大きな要因だったと考察する。

これまでの発掘調査により、比爪館関連遺跡と認められる下川原、南日詰、小路口、南日詰大銀、北日詰城内、北条館跡及び才土地の各遺跡を「比爪館関連遺跡群」とする総合的な調査研究が必要である。

近年の住宅団地造成に伴う大規模開発事業の増大傾向をみれば、喫緊の課題であると言わざるをえない。あらゆる機会を生かし、行政と民間の理解を得るための地道な活動を続けなければならないと思考する。

